

(様式) 府立松原高等学校 「学校協議会」 報告書 (第1回)

日時	平成28年6月18日(土) 14:00~17:00			
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	社会福祉法人 バオバブ福祉会理事	中須賀 久 尚	教頭
	菊 地 栄 治	早稲田大学教授	麦 田 伸 一	首席
	峯 本 耕 治	弁護士	伊 藤 あ ゆ	首席
	吉 田 敦 彦	大阪府立大学教授	山 口 裕 子	人権教育主担
	片 山 和 子	本校PTA会長	木 村 悠	人権教育主担
	教職員等			
	易 寿也(大阪芸術大学)・林 茂樹(摂南大学特任準教授) 田口 裕美子(事務長) 深井 恵介・中島 弥香・宮崎 舞・山田 憲一・林 知彦・岩尾 勝 園田 愛理・島田 隼人・佐藤 智美・中川 泰輔			
おもな テーマ	1) 本年度「学校経営計画」「学校方針」 2) ワークショップ「松高は何を発信すべきか」 3) 協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	○本年度の「学校経営計画」の説明等(教頭) グローバルな視点で地域社会を支える人を育てる、インクルーシブな総合学科高校 ○学校方針の説明と重点目標について(伊藤首席) ○第1回中高連携PJ報告(山口教諭) ○43期生高校選びアンケートと、入学後の生活の様子(木村教諭) ○ワークショップ「松高は何を発信すべきか」 生徒達の学習活動の写真から、特徴的なものを選び、キャッチコピーをつける ○協議委員からのご意見、提言			
提言内容・改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・(松原高校は) 幸せな学校。高校選びアンケートを見ると、「ここに私の居場所がある」、という理由で選んでいる。「一流でもない、二流でもない学校を作ろう」と言っていた価値観は総合学科になっても同じ。どんな子でも伸ばすことができる実績を発信し、制度の過渡期を乗り越えて。 ・ワークでは、現場で洗練された言葉があり、楽しかった。基礎学力も大切でそれを保障しようという動きもあるが、競争に巻き込まれないユニークネスを保持して。企業が求めている人材はまず面接で語れる人。 ・保護者はまだまだ松高の学びを知らない。出会い→学び→発信を1人ではなくすすめていく「松高スタイル」がある。 ・先生方のストーリーを語れる力がすごい。自分達が考える社会で生きていくスタイルを自分達が誇りに思っていることで作る。それは、長く生きていくことに対する責任。 ・一人ひとりの生徒を大切にしている。それは、子どもにとっては大切にされている実感、自己肯定感や信頼が育つ実感であり、それは社会での基礎的な力になる。 ・愛情、安心、安全が保障されて育つ自己肯定感 ・入学してきた生徒は、松高の価値をしっかりと見極めてくれた。企業が相対主義になり、「どっちもどっち」という考えが増えている。そこに立ち向かうために、積極的に社会像を提案していくことが大切で、その中心となるのが総合学科。 			